

企画展

遺跡からの メッセージ

金原遺跡最新出土品展Ⅱ

8/13



10/25

宮代町郷土資料館

開催にあたって

金原前遺跡と金原遺跡は平成 16 年の埼玉国体アーチェリー会場の（仮称）金原運動公園の建設に伴い平成 8 年 10 月から 11 月にかけての 2 か月間と平成 9 年 3 月から現在に至る 17 ヶ月間に渡り発掘調査が行われています。現在までに総面積の 2 / 3 にあたる 22,000m² が終了し、先土器時代から縄文時代にかけての石器の製作場の跡や縄文時代の住居跡、屋外で煮炊きを行った炉穴、胎盤を収納したといわれる埋甕、食物を貯蔵した穴（土坑）などが多数発見されました。

特に、金原遺跡では、縄文時代後期（約 3,500 年前）の 18 軒の住居跡が谷を囲むように弧状にならび、その周辺に貯蔵穴などの土坑がならぶというムラの様子が次第に明らかになってきました。

そこで、「遺跡からのメッセージ～金原遺跡最新出土品展Ⅱ～」と題して、金原遺跡ならびに金原前遺跡に住んでいた先土器時代の人々、そして縄文人たちからのメッセージの扉を開いてみたいと思います。9 月 6 日（日）には縄文時代のムラの様子を知ることができる遺跡セミナーや金原遺跡の現地見学会も予定されております。この機会に長いあいだ土の中に眠っていた縄文人のくらしの一端に触れてみませんか。

この展示を通じて私たちの先祖が残した貴重な歴史的遺産に対する関心や理解を少しでも深めていただくことが出来れば幸いに存じます。

目次

開催にあたって.....	1
目次.....	2
凡例.....	2
金原遺跡の位置と環境.....	3
先土器時代の金原遺跡.....	4
金原遺跡で発掘された土器.....	5
発掘された縄文時代のムラ.....	6
発見された縄文時代の道具.....	9
参考文献.....	13
復元 金原遺跡の縄文ムラ.....	14
金原遺跡・金原前遺跡全測図.....	15
新聞から見る金原遺跡.....	16
催し物のご案内.....	18
金原遺跡へのアクセス.....	18

凡例

1. 本書は、平成 10 年度第 3 回企画展「遺跡からのメッセージ～金原遺跡最新出土品展Ⅱ」（平成 10 年 8 月 13 日～10 月 25 日）の展示解説パンフレットです。
2. 今回の展示は、現在発掘調査中の資料を扱ったため、今後の調査によって変わることがあります。
3. 本企画展の企画・構成、本書の執筆等は当館職員等の協力等の下、金原遺跡調査員河井伸一、石津薫が行いました。なお、イラストは今村佐和子が作成しました。

金原遺跡の位置と周辺の環境

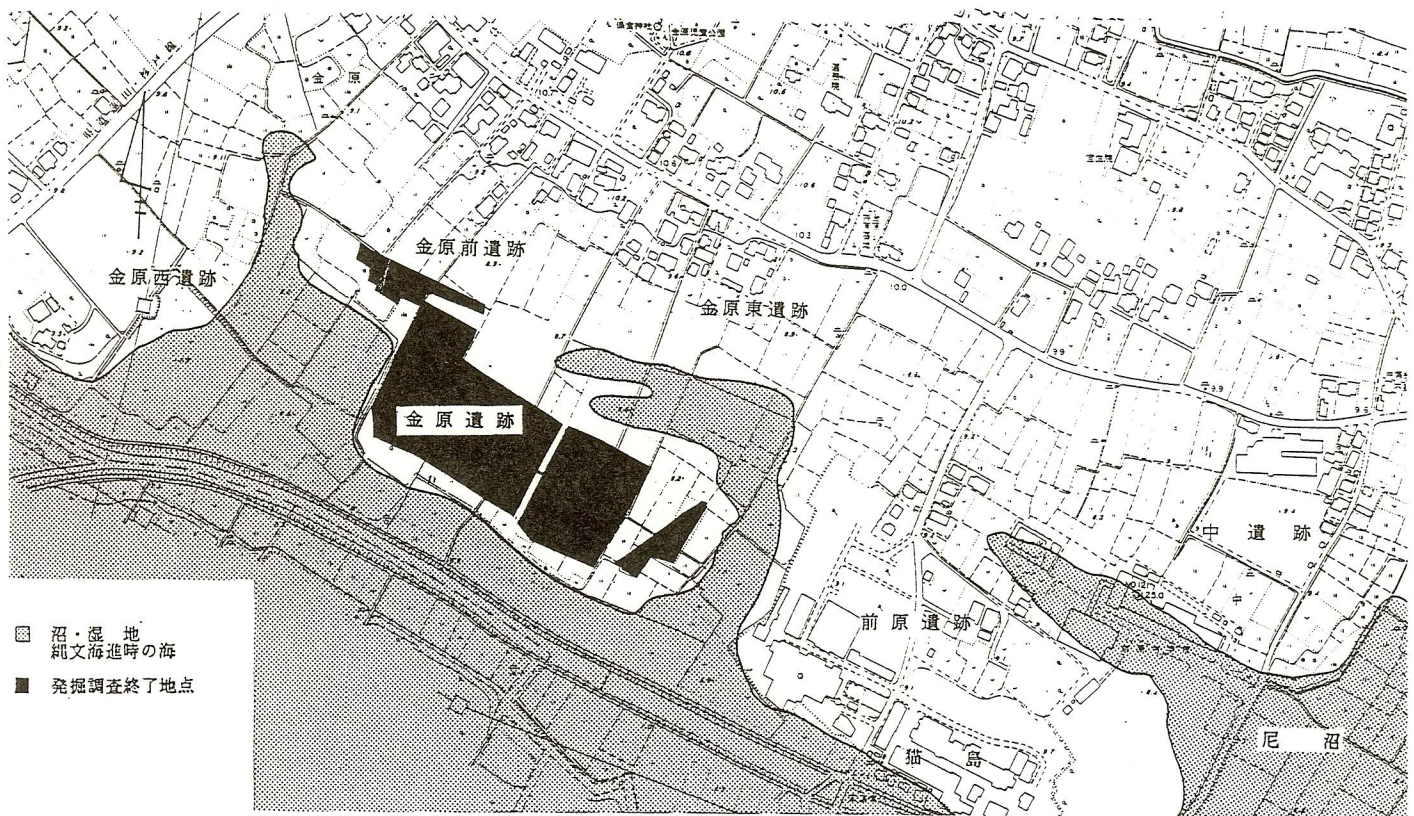
金原遺跡は、宮代町の南部に位置し、南は^{はやとほりかわ}牟人堀川をはさんで春日部市と白岡町と接しており、東武動物公園駅から南へ約3kmのところにあります。

地形的には慈恩寺台地の一支台にある南へ島状に突き出した台地にあり、三方を低地(水田)に囲まれています。この低地はかつては10m以上の深い谷となっており、縄文時代前期(約6,000年前)には海が広がっていたことが明らかとなっています。以前、西側の水田を約5m程掘り起こしたところ、貝殻が多量に出土したことから海だった様子が伺えます。当時は遠く群馬県館林付近まで海が入り込んでいました。

縄文時代後期(約3,500年前)頃になると、宮代・春日部付近までしだいに海も後退し、その後、沼地となりました。前原地区に残る^{あまぬま}の尻沼などの小字からもそうした様子が伺われます。さらに、江戸時代に行なわれた新田開発により、沼地は水田に生まれ変わりました。

金原遺跡の周辺には金原西遺跡、金原前遺跡、金原東遺跡、^{まえはら}前原遺跡、^{なか}中遺跡などがありますが、今回の発掘調査によって金原前遺跡と金原遺跡が一つの遺跡として縄文時代のムラであったことが明らかとなりました。

海の幸、山の幸が周囲に広がる金原遺跡は、先土器時代から人々が住む環境に恵まれたところであったのです。



金原遺跡周辺図

先土器時代の金原遺跡

金原遺跡に人々が住み始めたのは今から約 14,000 年前のことです。この頃は、浅間山などの火山活動が活発で、多量の火山灰が降り積もりました。これが「赤土」すなわち関東ローム層と呼ばれる土です。この「赤土」の中から当時の人々が使った道具が発見されています。金原遺跡では、約 14,000 年前のナイフ形石器や約 13,000 年前の細石刃さいせきじんと呼ばれる縦長の剥片はくぺん石器を作った跡が 1 か所確認されました。この製作跡からは、約 30 点もの細石刃が出土しました。これは、埼玉県東部地区に広がる大宮台地では町内の逆井遺跡さかさいに続く 2 例目の貴重な発見です。

ナイフ形石器

現在まで 5 点のナイフ形石器が出土しています。この石器は縦長の剥片の鋭利な一边を刃部としてナイフ形に作り出されたものです。一般的に皮を剥いたり槍の先に付けたものといわれています。

金原遺跡で出土したナイフ形石器は黒曜石くわうせきとチャートと呼ばれる石材を用いて作られています。こうした石材は宮代町付近ではありませんので、ほかの地域からはるばる運ばれてきたと思われます。



ナイフ形石器



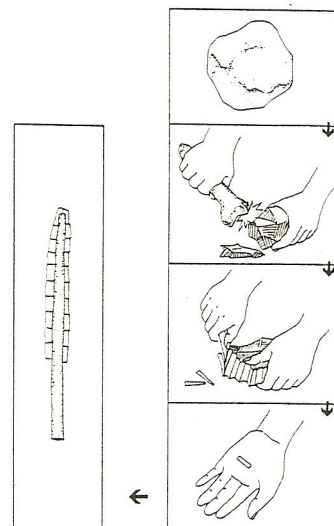
細石刃

細石刃

細石刃の製作跡から約 30 点もの細石刃が出土しました。この石器は約 3cm 内外の小型の剥片を利用した石器で木や鹿の角・骨などの軸の両側縁に 10 数個はめ込み使用されました。今日でいう「包丁」的な道具として使われたようです。

掻器(スクレイパー)

石の剥片などの一端を加工した石器です。木を削ったり、皮をなめすなどに使われたと考えられています。



細石刃の作り方

金原遺跡で発掘された土器

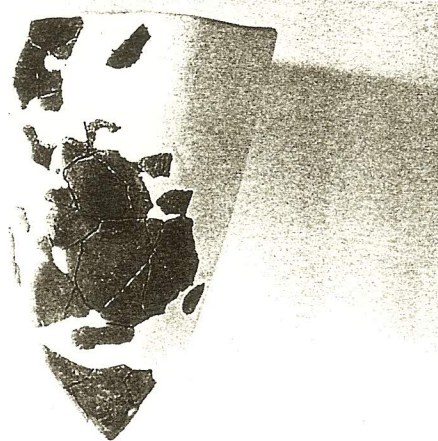
金原遺跡では縄文時代早期(約 8,000 年前)から縄文時代後期(約 3,500 年前)にかけての様々な模様をした土器が出土しています。

約 8,000 年前の土器は撚った縄を木の棒などに巻き付け模様を付けました。隣の前原遺跡では住居跡が発掘されています。しかし、金原遺跡では土器の出土はありませんが住居跡はまだ発掘されていません。出土した場所は台地東側の前原遺跡対岸です。なので前原遺跡と関係があると推定されます。

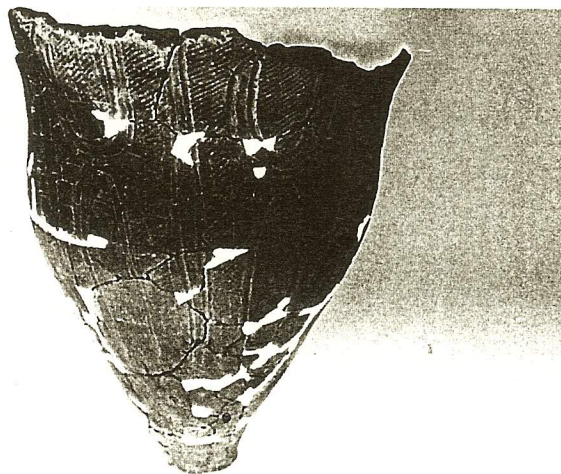
約 7,000 年前になると金原遺跡でも縄文人が生活をした住居跡や屋外で煮炊きを行った炉穴ろあなが発掘されています。この頃の土器はハイガイなどの貝殻の表面を使い土器の内外面を整形し、胎土しよくばつせんいに植物繊維を多量に含みます。金原遺跡では台地南側のやや標高が高い所で集中して見つかっています。

約 4,000 年前になると土器の厚みが増し、模様も派手になります。金原前遺跡では2軒の住居跡が発掘され多数の土器が出土しましたが、金原遺跡ではあまり出土していません。

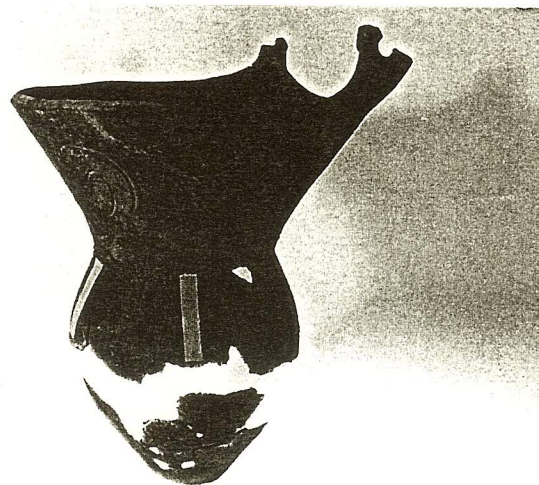
約 3,500 年前になると金原遺跡で最もムラが大きかった時期で多量の土器が出土しています。この頃の土器は、竹や木などの棒状の工具で模様を描きます。また、その沈線間に縄紐なひいもで縄文を施す土器もあります。台地西側の住居跡や貯蔵穴などの土坑どこう、掘立柱建物跡などが集中する地点から多量に出土しています。金原遺跡出土土器の内、約8割がこの時期のものです。



約 7,000 年前の土器 (逆井遺跡出土)



約 4,000 年前の土器 (金原前遺跡 4 号住居跡出土)



約 3,500 年前の土器 (金原遺跡 226 号土坑)

発掘された縄文時代のムラ

金原前遺跡と金原遺跡では、^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡や^{たてあなじょういこう}竪穴状遺構、^{ほうけいちゅうけつれつ}方形柱穴列など住居関連の遺構が25軒、貯蔵穴や土器を廃棄した穴などの^{どこう}土坑が330基、屋外の調理場である^{ろあな}炉穴が26基、乳幼児遺体や出産時に生じる^{たいばん}胎盤を納めたとされる単独の^{うめがめ}埋嚢が2基発掘され、次第に縄文時代のムラの全貌が明らかとなってきました。

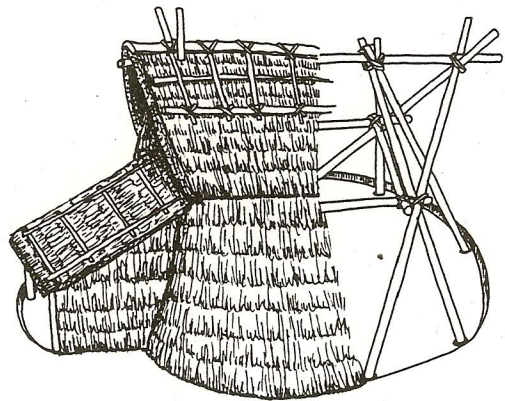
ここでは、金原遺跡や金原前遺跡で発掘された特徴的な住居跡等を詳しく見ていきたいと思います。

縄文時代早期後半（約7,000年前）の住居跡や炉穴等は島状に突き出した台地南側縁辺部のやや標高が高い場所でみつかっています。南側は^{あざしものや}字下の谷の低地（当時の海や沼）を望み、格好の漁場が広がっていました。ムラの北側には、おそらく木の実やイノシシやシカなどの動物などを狩ることができる森が広がっていたと考えられます。

縄文時代後期初頭（約3,500年前）には18軒もの住居跡があり、金原遺跡で最も人口が多く集落が大きかった時期といえます。台地西側の低地（当時の海や沼）を囲み込むように弧状に住居跡が並んでいました。住居跡と低地（当時の海や沼）との間には貯蔵穴など生活に使われた遺構が発掘されています。また、住居跡のやや東側では掘立柱建物跡（方形柱穴列）が見つかっています。この建物跡は竪穴住居跡とは性格の違う建物であるといわれています。この周囲では多量の土器が出土していることもこの建物跡の性格を考える意味で重要であるといえましょう。これより西側では遺構の数が非常に少なくなり、縄文時代後期初頭の土器もあまり出土しなくなります。これは、この地域に木の実の採集や動物を捕獲することが森が広がっていたのかもしれませんが。

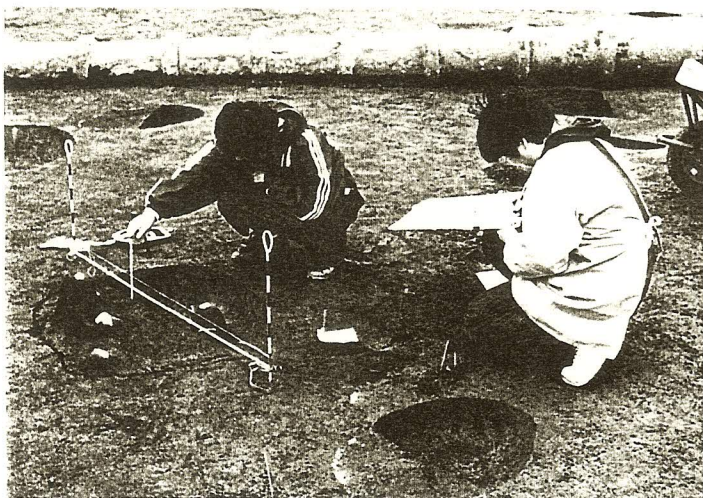
建て替えられた家 金原前遺跡1号住居跡

縄文時代後期^{ほりのうち}堀之内期（約3,500年前）に属し、直径6mを計る大型で南側に出入り口を持つ住居跡です。柱跡は35本を数え、壁を巡ってほぼ同じ大きさの柱跡が並んでいました。中央部から2か所の炉跡（煮炊きをした所）が見つかることから建て替えを行っていたと推定されます。古い炉跡を壊して土坑（貯蔵穴など）がつけられており、その中からほぼ完形の土器が発掘されました。



特別なものを納めた甕？金原遺跡4号住居跡

縄文時代中期加曾利E式期(約4,000年前)の住居跡です。調査範囲の関係や近代の溝により壊されていたため、住居跡の規模は不明ですが、おそらく、出入り口部が張り出した柄鏡型住居跡であると考えられます。出入り口部に1基と出入り口部と主体部が接するあたりに1基、^{うめがめ}埋甕が配置されていました。埋甕の中からさらに別の土器の底部が出土し、なにか特別なものを埋納していたような出土状態でした。



調査風景

掘立柱が並ぶ倉庫跡？金原遺跡1号方形柱穴列

縄文時代後期^{しょうみょうじ}称名寺期(約3,500年前)の方形柱穴列です。この遺構は7本の柱跡からなる掘立柱の建物で普段生活をするため造られた竪穴住居とは違う性格の建物であると考えられます。規模は長径6m、短径4.5mを計ります。この周囲からは多数の穴や土器が見つかっています。



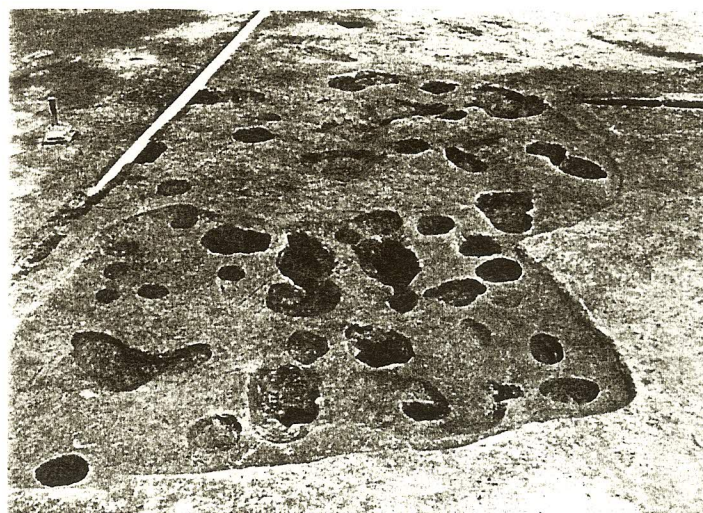
金原遺跡1号方形柱穴列

3,500年後に再び住む金原遺跡2号・6号住居跡

縄文時代早期^{しょうこんちん}条痕文期(約7,000年前)の6号住居跡を縄文時代後期称名寺期(約3,500年前)の2号住居跡が壊して造られていました。

2号住居跡は南側に出入口部が張り出した^{えかがみかた}柄鏡型の住居跡です。主体部は長径5.2mを計り、12本の柱跡が等間隔に壁にそって建てられて、中央部には煮炊きをした炉跡が造られていました。

6号住居跡は2号住居の柄部により壊されていました。規模は長径4.5m、短径3.3mの長方形を呈します。石製の耳飾りなども出土しています。



金原遺跡2号住居跡・6号住居跡

火災にあった家 金原遺跡 3 号住居跡

縄文時代後期称名寺期（約 3,500 年前）の出入口部が南側に張り出した柄鏡型の住居跡です。主体部は長径 6.2m を計る金原遺跡で最も大きな住居跡です。主体部と柄部の接する地点に埋甕が埋納され、その北に炉跡が構築されていました。この住居跡は焼失住居であったため、炭化した建築部材も発掘されています。



金原遺跡 3 号住居跡出土建築部材

装飾品？も出土 金原遺跡 7 号住居跡

縄文時代後期称名寺期（約 3,500 年前）の住居跡で出入口部が南側に張り出した柄鏡型の住居跡です。中央部には煮炊きをした炉跡が確認されています。柱の穴は 34 本を数え、造り替えた跡も確認されています。炉の近くからは土で作られた装飾品と考えられる遺物も出土しました。



金原遺跡 3 号住居跡

金原遺跡最古の住居跡 金原遺跡 9 号住居跡

縄文時代早期条痕文期（約 7,000 年前）の住居跡で、長径 4.5m、短径 2.8m を計る長方形を呈します。12 本の柱跡が発掘されました。炉跡は検出されませんでしたがこの住居跡の近くから屋外で煮炊きを行った穴が見つっています。



金原遺跡 9 号住居跡

重なり合う住居跡

金原遺跡 11・12・13・14・17 号住居跡

いずれも縄文時代後期称名寺期（約 3,500 年前）の住居跡で 5 軒の住居が重なって発掘されました。近世の道路状遺構などで壊されていたため、あまり残りのよい状態ではありませんでしたが、多数の土器が出土しています。柱穴の底からはクルミも出土しています。

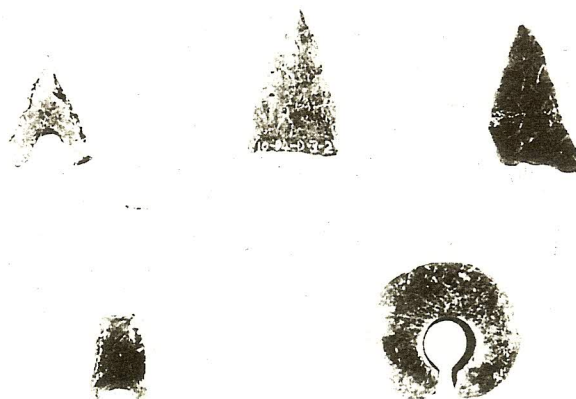
発見された縄文時代の道具

現在、私たちは快適な生活を送るために様々な道具を使っています。縄文時代の人々も生活を支えるために様々な道具を使っていました。しかし、何でも機械で作られている現代の道具に比べて、縄文時代は道具を作るための材料を集めたり、用途に合わせて自ら道具を加工したりしなければなりませんでした。材料を集めるために、時には遠くの場所まで行ったようです。金原遺跡から多くの道具が発見されています。それらの道具から、縄文人の暮らしぶりを考えてみましょう。

1) 狩猟の道具

矢じり(石鏃)

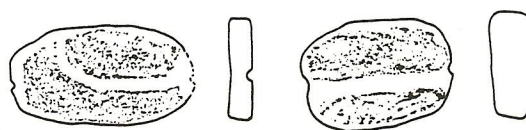
遠く離れた所にいる動物を射止めるために弓矢が用いられていましたが、その矢の先端に付けていた道具が矢じりです。遺跡からは数多く発見される道具のひとつで、金原遺跡でも様々な形をした矢じりが発見されています。ほとんどが黒曜石やチャートという石を加工して作られています。



ヤジリと耳飾り（逆井遺跡出土）

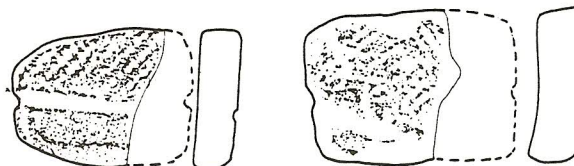
尖頭器(ポイント)

動物を突き刺すために槍の先端に付けて使っていたようです。先土器時代から使われ始めたようですが、金原遺跡から出土した3点は縄文時代草創期（約 12,000 年前）のものと考えられます。



浮子

海（沼）で魚などを取るために用いられました。軽石で作られています。土鍾のように刻みが入っているので投網用の浮子として使われたのかもしれませんが。



土鍾（前原遺跡出土）

土鍾

網を使って海（沼）で魚などをとる時に、おもりとして網の先端につけて、用

いられました。両端に網の縄をかけるための切り込みが入っています。土器の破片を再利用して作られたものが多く、金原遺跡では住居跡からも出土しています。

2) 調理する道具

土器

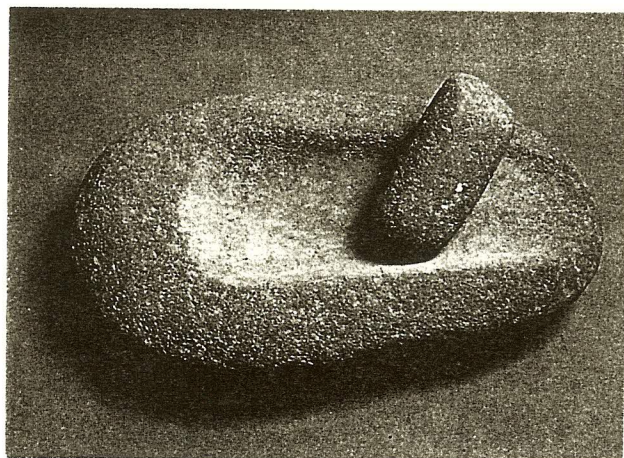
煮炊きをしたり、クルミなどの木の実や水を貯めておいたり、お供え物を供えるなど様々な用途の土器があります。金原遺跡からは縄文時代約 3,500 年前を中心に約 8,000 年前の土器など古い土器も見つかっています。



土器（金原遺跡 17 号住居跡出土）

石皿

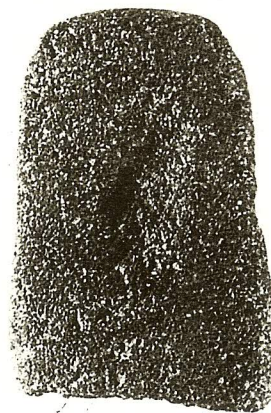
トチの実やドングリなどの木の実を石皿の上にのせ、^{たたきいし} 敲石で砕いたり^{すりいし} 磨石ですりつぶしたりするための台として使われました。他の遺跡では石皿の上に磨石が置かれた状態で発見されたりもしています。石皿と磨石はセットで用いられました。金原遺跡ではほとんどが破片で発見されています。



石皿

磨石・敲石

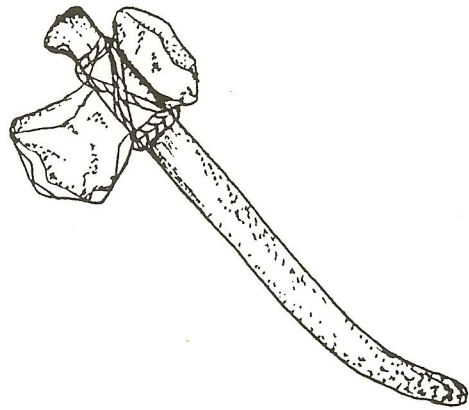
石皿の上にのせたトチの実やドングリなどの木の実などを、^{すりいし} たたいて粉々に砕くために^{たたきいし} 敲石を使い、すりつぶすために磨石を使用しました。金原遺跡ではベンガラ（赤色顔料）が付着した磨石が発見されています。おそらく、遠くから運ばれてきたベンガラの原石をすりつぶしたのではないのでしょうか。櫛や漆器に塗られた、縄文漆の原材料としても用いられたものと考えられています。



凹石（逆井遺跡出土）

凹石

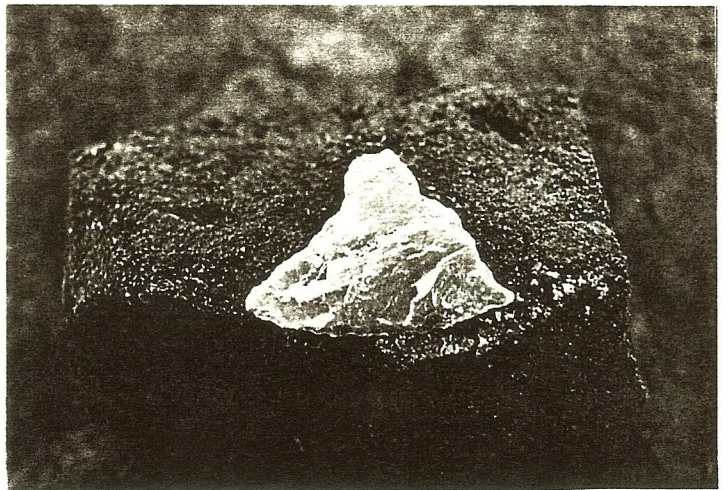
石皿とほとんど同じように、木の実を^{たたき}敲^{いし}石で割ったりする時に台などとして使われました。^{くぼ}凹みに木の実を置いたのでしょう。凹みが多く、^{はち}蜂の巣に似ていることから蜂の巣石とも呼ばれています。金原遺跡では破片が多く発見されています。



石斧推定復元図

ふた

どのように使われたか明らかではありませんが、おそらく現代と同じく^{にた}煮炊きをするときに土器にかぶせて使われたと推定されます。金原遺跡2号住居跡から発見されたものは、口径が大きいのが特徴的です。大きな土器専用のふただったのでしょうか。



石匙（金原遺跡出土）

石斧

石を割って作られた^{だせい}打製石斧と磨いて作られた^{まぜい}磨製石斧があります。柱などの木の^{はっせい}伐採や加工などに使われました。一部の石斧は、現代のシャベルのように土を掘るためにも使われたようです。

石匙

つまみが付いた石器で、一般的に皮をなめするときやナイフのような用途として使われたと推定されます。宮城県^のの遺跡からは紐^{ひち}のついた^{いしきし}石匙も発見されています。常に持ち歩いていたのでしょうか。金原遺跡からは3点発見されています。



耳飾り使用状況復元図

3) 装飾品

耳飾り

耳たぶに穴を開けて付けたイヤリングです。金原遺跡では6号住居跡から出土

したことから、約 7,000 年前のものと推定されます。逆井遺跡からも出土しました。

指輪形土製品

直径約 1 cm の指輪形の土製品で、何に使われたのか明らかではありませんが、装飾品として使われたのかもしれませんが。金原遺跡 7 号住居の炉跡の近くから発見されました。



4) 折りの道具

埋甕

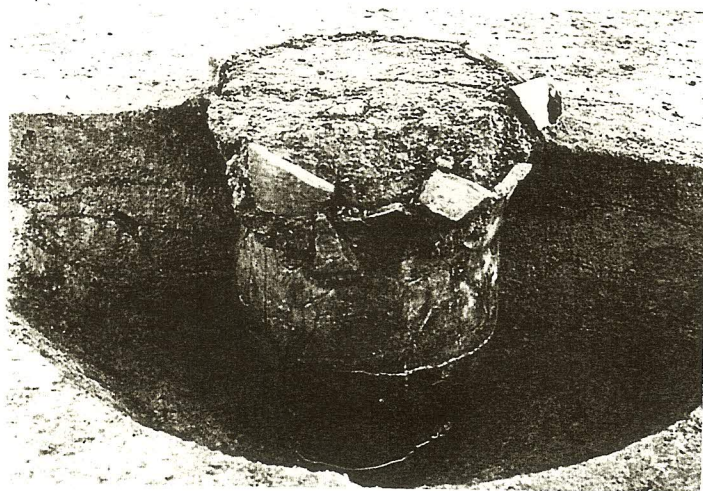
住居の出入口部に埋められた土器で、胎盤を収納しているといわれています。出入りの激しい所で踏みつけられることにより、子供が丈夫に育つことを祈って埋めたのでしょう。江戸時代にも家の出入口の土間に胎盤を埋める風習があったと伝えられています。また、幼児を埋葬したという説もあります。

石棒

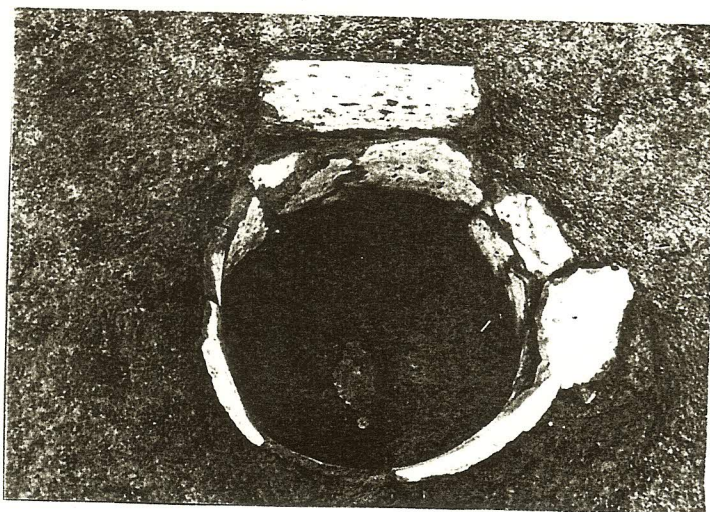
一般的に祭祀に用いられた道具といわれています。金原前遺跡 4 号住居跡で埋甕とセットで出土しました。

ミニチュア土器

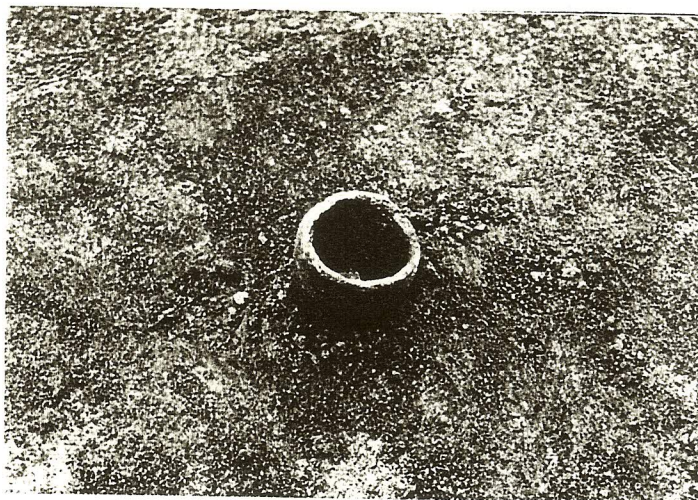
名前のとおり土器のミニチュア版で、何に使われたのか明らかではありません。お祭りの時のお供え物のひとつだったのでしょうか。金原遺跡からは 3 号住居跡と 7 号住居跡から発見されています。



埋甕（金原遺跡 8 号住居跡出土）



埋甕と石棒（金原前遺跡 4 号住居跡出土）

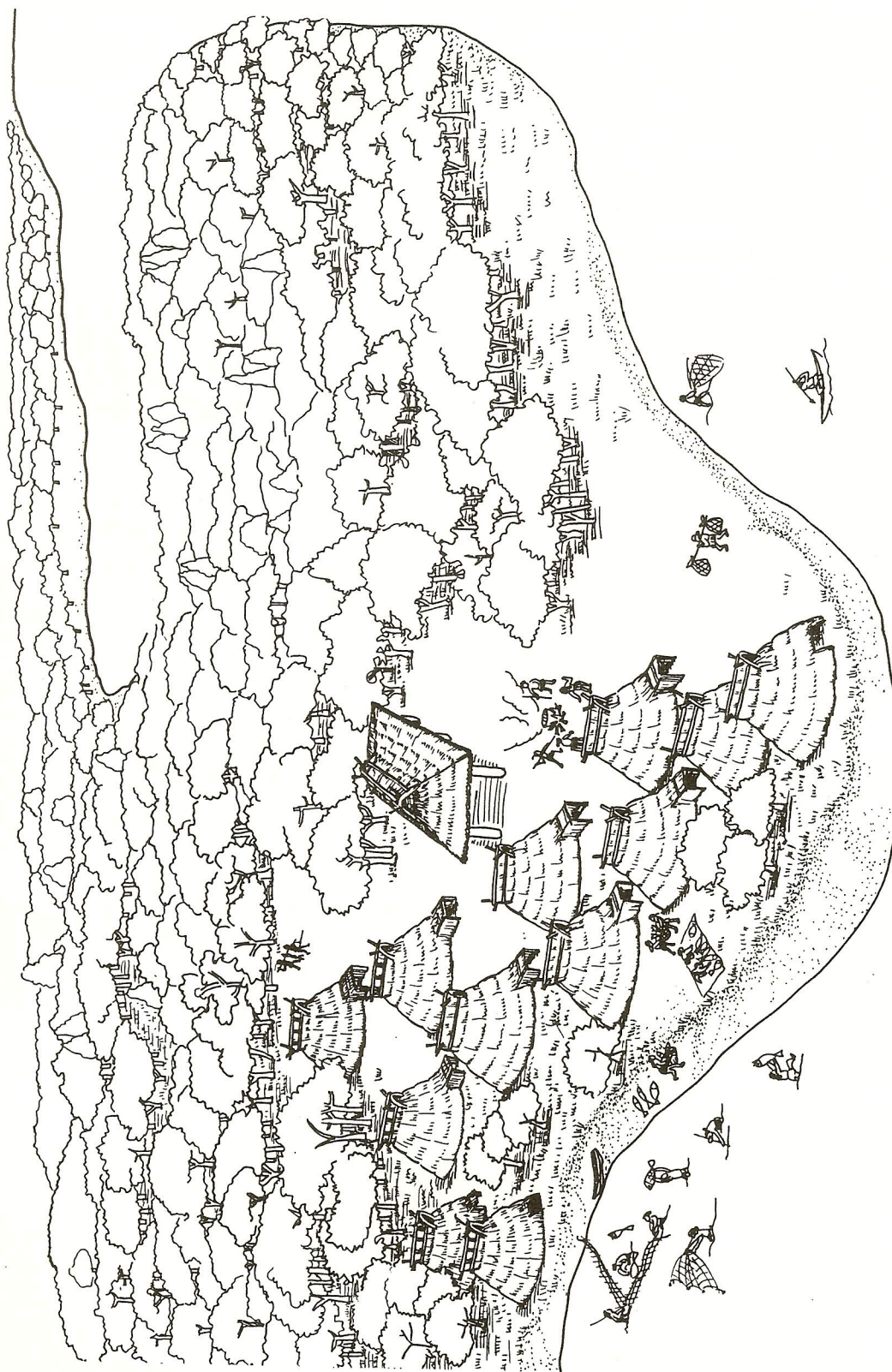


ミニチュア土器（金原遺跡 7 号住居跡出土）

参考文献

- 1) 宮代町教育委員会 1983 「前原遺跡」(『宮代町文化財調査報告書第1集』)
- 2) 宮代町教育委員会 1984 「山崎南遺跡・前原遺跡」(『宮代町文化財調査報告書第2集』)
- 3) 宮代町教育委員会 1995 「宮代の遺跡」(『宮代町史資料第7集』)
- 4) 宮代町教育委員会 1997 「逆井遺跡・山崎山遺跡」(『宮代町文化財調査報告書第6集』)
- 5) 小林達雄 1988 『古代史復元3』 講談社
- 6) 鈴木道之助 1991 『石器入門事典』 柏書房
- 7) 岡村道雄 1988 『歴史発掘1 石器の盛衰』 講談社
- 8) 斎藤忠 1992 『日本考古学用語辞典』 学生社
- 9) 戸沢充則 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版

復元 金原遺跡の縄文ムラ



金原遺跡・金原前遺跡全測図



金原遺跡へのいざない

宮代 郷土資料館で出土品展



発掘されたばかりの4000年前の埋設土器が公開されている金原遺跡出土品展—宮代町郷土資料館

40点の土器・石器を公開

園(仮称)建設に伴い、昨年十月から事前発掘調査が行われている。約四千年から三千年

五百年前の遺構や遺物などが発見されており、現在も貴重な埋蔵文化財の発掘作業が続けられている。

これまで同遺跡から、縄文時代中期から後期にかけての住居跡や、胎盤や幼児を埋葬したと思われる埋めがめ、貯蔵穴、土坑(どこう)などが発掘され、弓矢の先に取り付けられるヤジリや木の実をすりつぶすときに使った石皿、たつき石、漁網用おもりの土甌(どすい)など、当時の縄文

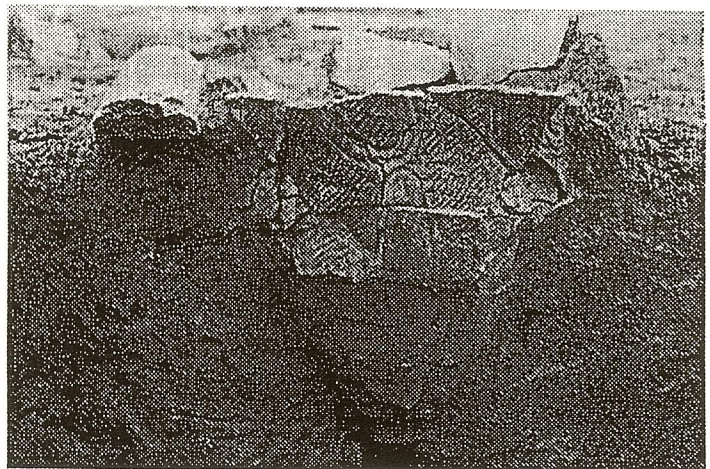
人の生活を伺える道具も数多く見つかった。同資料館によると、これらの出土品などから、金原遺跡に住んでいた縄文時代の人々は周囲を海や沼、森林に囲まれ、魚や貝などの海産物や木の実、森林に住み着いているシカやイノシシなどの動物たちと共生していたと考えられるという。「調査結果を一刻も早くご覧になってもらおう」と、出土品展を開催しました。発掘現場へも足を運んでもらいたい」と、町内外からの来館を呼び掛けている。

開館時間は、午前九時半から午後四時半まで。月曜日、第二・四火曜日休館。入場無料。問い合わせは、宮代町郷土資料館(☎0480・34・8000)へ。

平成9年6月24日 埼玉新聞

宮代・金原遺跡から出土 縄文土器など40点展示

8月24日まで、町郷土資料館で



土中から見つかった埋設土器

されている。

この発掘現場からは、死産児を入れる甕棺として使用されていたとみられる複数の埋設土器や、祭祀などに使われたと推定される石棒、石器などが多数出土している。

出土品の中には、漁網のおもりに使ったとみられる土甌もあり、同資料館は、

「同遺跡が、海や沼に囲まれ、そこに突き出た台地に築かれた集落だった可能性があり、当時の人々が陸上のものだけでなく、水産物も採取していたことがうかがえる」と話している。

八月二十四日まで。入場無料。開館時間は午前九時半から午後四時半まで。月曜日、第二、第四火曜日、

平成9年7月1日 読売新聞

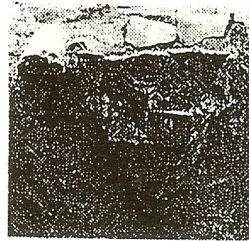
〈宮代〉

発掘！ 「金原遺跡」

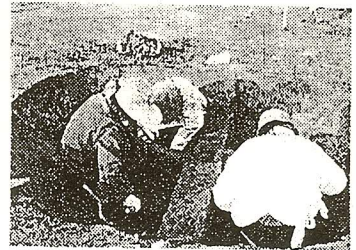
平成16年に開催される埼玉国体のアーチェリー競技予定場である宮代町金原地区（仮称金原運動公園）を造成したところ、公園への進入道建設予定地から縄文時代の遺跡を続々と発見、連日に及ぶ発掘調査が行なわれている。

現在までに、約四千年から三千五百年前（縄文時代中期後葉から後期前葉）といわれる多数の土器や石器、軒の堅穴式住居跡、また貯蔵用の穴もしくは墓などと考えられ

縄文時代の
住居跡、土器や
石器など続々…



発掘の断面



ついでに発掘中

平成9年1月11日 東武朝日

〈宮代〉 発掘調査続く 金原遺跡

出土品次々と…



新たに発掘された埋蔵

連日発掘調査が実施されてある金原遺跡（宇金原地内）運動公園及び、運動公園へので、新たに住居跡、遺物等が多数出土し、縄文時代後期の半ばから八十年から発掘調査が考えらるうえて非常に重要な遺跡となっている。

昨年八月には、中国の殷墟金原遺跡は宮代町の南部に位置し、単人堀川を挟んで白岡町、春日部市と対峙している。平成十六年度埼玉国体の掘の様子を見学し、深い興味

を示した。

金原遺跡

発掘調査の経過

現在までに確認された遺物等は次のとおり。

旧石器時代細石刃文化期（約一万三千年前）の細石刃約15点・細石刃核の調査剥片1点・縄文時代早期（約七千年前）の堅穴住居1軒・炊火8基、縄文時代中期（約四千年前）の堅穴住居2軒・埋設

土器3基、縄文時代後期（約三千五百年前）の堅穴住居5軒・堅穴状遺構1基・埋設土器2基・土坑約100基。

新たに、旧石器時代後期（約二万四千年前）のナイフ形石器2点、縄文時代草創期の木葉形尖頭器1点、縄文時代後期の堅穴住居2軒、方形柱穴列1基、埋蔵1基。

今後、調査区北側及び西側を調査していく予定。

平成10年1月10日 東武朝日

催し物のご案内

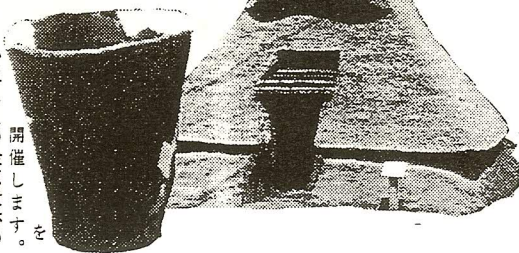
遺跡からの メッセージ

●金原遺跡最新出土品展

8月13日
～10月25日

▼金原遺跡のある
(仮称)金原運動
公園では、建設
工事の事前の発
掘調査が実施され
ています。

或16年に埼玉国体のアーチェ
リー会場となる予定です。▼
今までに先土器時代(約1万
4000～1万3000年前)
のナイフ形石器や曲石刀、縄
文時代の住居跡2軒、炉穴20
基、埋溝、掘立柱建物跡など
多数の遺構が発掘されていま
す。▼郷土資料館では金原遺
跡発掘出土品の企画展示を実
施します。あわせて、遺跡セ
ミナー(講座)や現地見学会



いにしへの金原遺跡の
人々が使った道具などから、
郷土宮代の先人の文化や習俗
を思い巡らしてみたいかが
です。

●金原遺跡探訪ツアー

▼遺跡セミナー(講座)や企
画展示の解説、金原遺跡現地
説明会がセットになった遺跡
探訪バスツアーです。遺跡セ
ミナーで学んだ縄文時代のイ
メージから金原遺跡をみると、
新たな発見があるのではない
でしょうか。▼定員の関係で
このツアーに参加できないかっ

た方々も、現地見学会にはぜ
ひご参加下さい。

●遺跡セミナー「金原遺跡と
その時代」全国の発掘調査事
例から」

講師 鈴木敏昭氏(熊谷市教育
委員会、宮代町史監修者)

●企画展「遺跡からのメッセ
ージ」金原遺跡最新出土品展

「」の展示解説

●金原遺跡の見学
日 9月6日(日) 9時45分
宮代町役場集合 14時40分解
散(予定)

持 昼食
定 40名(申込順)
費 無料(町有バスを使用)
申 8月11日(火)から郷
土資料館へ

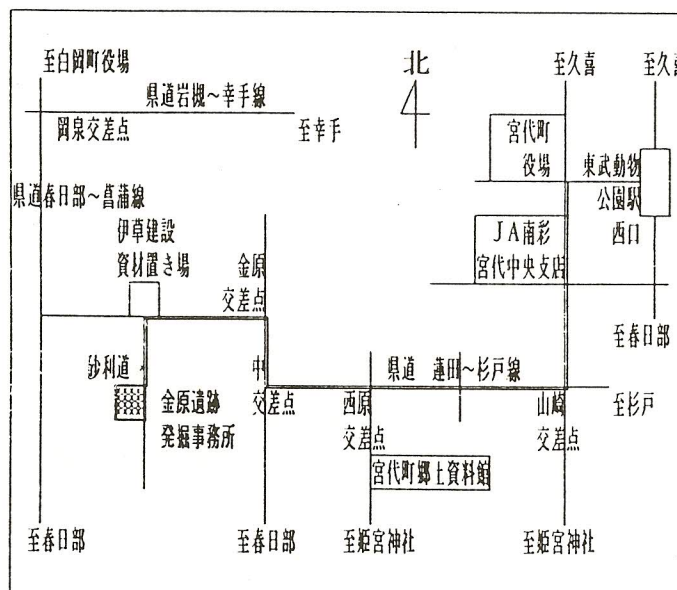
●時を超えて

「金原遺跡現地見学会」

▼金原遺跡では南側に出入口
を持つ約3500年前の住居
跡や炉穴などたくさんの遺跡
が発掘されました。このよう
な発掘されたばかりの縄文時
代のムラの跡が実際に見学で
きます。▼また発掘事務所1
Fには写真、パネルや土器・石
器等を陳列しており、身近に
見ることできます。皆様も
縄文時代へタイムスリップし
てみませんか。

日 9月6日(日) 10時～11時
20分
受 当日10時までに金原遺跡へ
集合
問 郷土資料館
金原発掘事務所 31・0674

金原遺跡へのアクセス



金原遺跡への案内図

平成10年度第3回企画展

『遺跡からのメッセージ』

～金原遺跡最新出土品展～』

平成10年8月13日(木)～10月25日(日)

発行年月日 平成10年8月13日

編集発行 宮代町郷土資料館

☎345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

☎0480-34-8882

0480-31-0674 (金原発掘事務所)

<http://www1.sphere.ne.jp/miyasiro>